日本音楽教育メディア学会
(JAPANESE MEDIA SOCIETY FOR MUSICAL EDUCATION)
# JMSME News Letter
2024.1 vol.18

発行：令和６年１月１５日
日本音楽教育メディア学会事務局
〒125-0062 葛飾区青戸 5-5-16
メールアドレス info@jmsme.org
ホームページ
https://jmsme.org/

## ご挨拶

会長 田中功一

昨年５月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが「５類感染症」に移行し、日常生活がやっと戻ってきたと思っていましたが、元旦から石川県を中心に甚大な災害が起こりました。令和 6 年能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、本学会では論文・研究報告・口頭発表原稿を学会論集として発刊しております。昨年は３月発刊予定の「音楽教育メディア研究 Vol.9」が大幅に遅れたことに対して重ねてお詫び申し上げます。その反省から理事会で検討した結果、今期より論文が受理された時点で論集発刊に先立ってホームページに公開することになりました。ホームページ公開日に合わせてノンブル（頁番号）を振るため、論集の掲載順が従来と異なります。各論文のホームページ公開の手順は次の通りです。

「J-STAGE 掲載論文」は査読終了後に受理され、受理順に論集のノンブルを振り、論集発刊前に本学会ホームページ及び J-STAGE に早期公開となります。これは従来から行ってきた手順です。今回から新たに先行公開となるのは「学会ホームページ掲載論文」、「研究報告」、「口頭発表原稿」の三つの論文です。「学会ホームページ掲載論文」は査読後受理され、受理順にノンブルを振り、本学会ホームページに早期公開となります。「研究報告」は書式と体裁の確認後受理され、受理順にノンブルを振り、本学会ホームページ早期公開となります。「口頭発表予稿」は書式と体裁の確認後受理され、論集発刊日までホームページにノンブル無しで予稿として掲載します。研究会終了後、口頭発表者が予稿の加筆修正を行い、論集発刊前にノンブルを振り、「口頭発表原稿」として本学会ホームページに掲載します。本学会では「研究報告」と「口頭発表原稿」は広義の論文として扱います。

このような新たな対応により論集発刊前の早期公開を進めてまいります。先生方の業績報告のスピードアップに対応できるようにいたします。本ホームページ公開後は、「JST」国立研究開発法人科学技術振興機構が運営する「researchmap」に先生方が登録していただきたいと思います。researchmap は第三者が先生方の業績確認をするデータベースとして利用されています。なお、researchmap のデータは「KAKEN」や「J-GLOBAL」に自動的に反映されます。口頭発表原稿も researchmap にご登録なさるとよろしいかと思います。

本学会の J-STAGE 公開論文のアクセス状況はこれまでと同じような推移のようです。先生方の論文の引用もカウントされ続けています。J-STAGE は論文の発信力としてパワフルであり、同時に論文の質が評価されるため、J-STAGE 公開論文の査読は学会外の研究者に依頼しています。先生方のさらなる投稿をお待ちしております。また、論文の早期公開に興味を持っていただける先生方がいらっしゃいましたら本学会へお誘い下さい。

# 日本音楽教育メディア学会　第１８回研究会のご案内

日時：2024 年２月２３日（金・祝）
開会：13：00
場所：葛飾シンフォニーヒルズ　別館　２階　ビジュアルルーム
会場とオンライン（Zoom）でのハイブリッド開催となります

参加費：会員無料　　非会員：1,000 円（事務局に参加お申し込みください）
17：15～懇親会（青砥駅周辺予定）
事務局：info@jmsme.org

## 口頭発表（発表 20 分、質疑応答 10 分）

13：05「廃材を活用した音楽づくりの可能性」
北川 真里菜　（和歌山大学教育学部附属小学校）

13：35「ソニー“360Reality Audio”を用いたクラシック音楽コンテンツの制作」
後藤　友香理（静岡大学）

休憩

14：15「郷土の音環境文化の伝承と創造
～遠州波小僧プロジェクトのサウンドエデュケーション～」
兼古 勝史（放送大学）、大門信也（関西大学）、箕浦一哉（山梨県立大学）、
岩田茉莉江(おとたまり)

14：45「教員・保育士養成音楽授業での ICT 活用
～音楽理論動画作成とピアノエ場リモート見学について～」
小林 田鶴子（神戸女子大学）

休憩

15：25～　情報交換会

16：25 閉会（予定）

## 連載「子どもの歌」　～子どもに歌ってもらえていない歌～

子どもの歌と題して毎回書かせていただいているが、今回は、少し思考を変えてみる。

今回取り上げるものは、子どもにも歌ってもらいたかった歌である。

これは、地方自治、地方の意識を浸透させるために、大人も子どもも、声をそろえて一体となって歌うことを狙い、子どもたちは義務教育で歌という趣旨もあった歌と言われる、県歌・県民歌である。

この県歌・県民歌は現在 53 曲確認されており、宮城県、秋田県、静岡県、富山県、山梨県、岡山県、山口県、福岡県、佐賀県は複数曲存在している。半面、大阪府、兵庫県、広島県、大分には現在のところ 1 曲も存在しない。このようにたくさんの県歌・県民歌が存在するのは GHQ の思惑があったとのことである。それは、「軍隊」を解体し、それまで「思想」「信仰」「集会」及び「言論の自由」を制限していたあらゆる法令の廃止、特別高等警察の廃止、等々、新しい日本を構築していくための一助となるような意味合いが意図だということだ。つまり、アメリカの州歌のような、歌による共同体形成を考えたのだろう。しかし、県歌・県民歌は実際にはそこまでスムーズに作成されたのではなく、GHQ が日本から去った昭和 27 年以降から昭和 40 年代にかけて作成されたものが多い。

そのような県歌・県民歌は、一昔前まで、義務教育で取り扱い、学ぶ場があった。しかし、現在はいずれの県もそのような機会はほとんどない。

さて、これらの県歌、県民歌には、ある特徴がある。それは「色」や「色をイメージできる言葉」が歌詞に含まれているということである。どの県も自分の県を色による表現をしている。例えば千葉県であれば「海青し」「山みどり」「白く」、東京都であれば「あさみどり」「みどりのそのに」「白きつばさも」などである。

色身も多彩で「赤」「青」「白」「緑」「黒」「黄金」「金」などがある。

是非、県歌・県民歌歌詞カラー地図を作成してみたいものである。

帝京科学大学教育人間科学部教授　　飯泉祐美子

## コラム

先日、勤務先の玉川大学芸術学部に、「エデュケーションプログラム 2023」と称して、ベルリンフィルの弦楽四重奏団が来校した。午前中は一般の方と大学生を対象とした公開講座とミニコンサート、午後は中高生を交えての音楽交流プログラムであった。

来校の 2 週間ほど前に、(幸いにも?)通訳を任されたのだが、その中で幾つか印象に残った言葉を挙げてみたい。

私は幼少期に少しヴァイオリンを習ったことはあったが、専攻はピアノなので、弦楽器の専門用語や楽器についての知識は本で読むこと（弦楽器のドイツ語を知らない！）で補うしかなかった。そのことを、一応事前にお知らせしておこうと思い勇気を出して話しかけると、一番年長のヴィオラのハンターさんが、すかさず「音楽はみな同じ。求めていくことは同じですよー！」と返してくれた。そうだ、そうだ、今までもそうやって生きてきたじゃないかと力づけられた後は、不思議と口からドイツ語が溢れ出てきた。

公開講座は、学生の演奏に続いて 4 名の奏者が次々にコメントしていくという形式で、皆さん示し合わせたかのように音楽のことしか仰らなかった。表題から受ける印象や、フレーズの作り方、アンサンブルに必要な呼吸のことなどだ。だが最後に「自分を信じて音を出しなさい！」と言っていらしたチェロのシンケヴィッチさん。これがまた心に刺さった。我々はなぜ音楽をしているのか。今で言うに、なぜ人間は音楽をしているのか。これからの時代に深く問われるであろうこの問いに、私は確信をもって、こう答えたい。

「それは、心があるからだ！」と。

玉川大学・武蔵野音楽大学　森永美穂子

新入会員メッセージ

彭 子澴（九州大学）

皆様、初めまして。彭 子澴 (PENG ZIXUAN ペンニ スシン / ほう しかん<日本語読み >)と申します。

私は中国の大学で、声楽、ピアノ、チェロ、作曲等を学び、修士課程を修了しました。2018 年 10 月に来日して日本語の勉強を始め、2020 年から九州大学大学院芸術工学部博士後期課程に所属しています。同時に、愛媛大学の教育学部で研究員として働いています。

私は音楽分野を主たる専門領域として研究に取り組んでまいりました。より具体的に は、「音楽理論(特に楽曲分析法の研究)」「音楽教育法と実践」といった音楽学や音楽教育学の分野で研究を進めています。博士後期課程では、上級音楽学習者が楽曲の深い理解に役立てている音楽理論を、基礎的な音楽教育の現場でどのように活用できるか に着目して研究しています。過去の研究では、音楽を活用した社会・地域課題の解決や、伝統・民族音楽の伝承と変容といったテーマなどについても取り上げています。他 にも、音楽を通じた障碍者の支援、外国人・女性研究者の現状と課題にも関心を持ち、各テーマで研究を進めています。将来は趣味を発展させながら多分野にまたがる研究を行い、多彩に活躍する研究者を目指したいと思っています。

また、現在は、博士論文に関連する研究に取り組み、その成果を論文として執筆し、投稿する作業に日々励んでいます。日本語での論文執筆はまだ未熟ですが、弱点を克服し、執筆能力を高めるために努力を続けています。本学会で皆様と共に学び、成長を重ねてまいりたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

新入会員メッセージ

北川真里菜（和歌山大学附属小学校）

皆様初めまして。この度会員となりました、北川真里菜と申します。私は現在、和歌山大学附属小学校で勤務しております。作曲を専門としており、教師になる前はピアノの演奏活動や作曲活動、作品発表を行っておりました。数年前より ICT・プログラミングを活用した創作・音楽づくりに関する研究を行っており、Scratch や micro:bit、embot やプログラミングゼミなどのビジュアル言語型ソフトを用いた音楽づくり授業実践を行っています。

本学会で皆様と勉強させていただけることを楽しみにしております。
これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 会　員　掲　示　板

兼古勝史
先生より

## 「心に残る音風景」写真・動画公募（日本サウンドスケープ協会）

日本サウンドスケープ協会（SAJ）では、設立 30 周年を記念して「心に残る音風景」をテーマに写真・動画を公募しています。（1 月 31 日締め切り）
忘れ得ぬ音、記憶の中の響き、いつもの風景、一期一会の音模様…
人それぞれ、心に残る音風景は異なることでしょう。
きれいな音、美しい音ばかりとは限らないかもしれません。
音風景の多様性を共有し、相互理解を深め、未来につなげるため、皆さんからのご応募をお待ちしています。
詳しくは、（一社）日本サウンドスケープ協会 HP～「心に残る音風景」募集のページをご覧ください。
https://www.soundscape-j.org/activities_2023_30thcompetition.html

第 6 回総の国童謡作詞･作曲コンクール入賞作品を含
第 6 回総の国童謡音楽祭　2024

日時/2024 年 3 月 30 日（土）PM1：30 表彰式 PM2：00 開演
場所/松戸市　栄松寺

入場料/大人 2000 円（前売り 1800 円、中高校生 1000 円（前売り 900 円）、小学生以下無料

音楽祭プログラム
≪Ⅰ部≫
【小学生の部】優秀賞/青木茉奈「ワンツー　パンツ　パーティー」山口県、
瀧崎丈翔「人生にある宝物」東京都、青木茉莉香「ハワイへ行こう」山口県
【一般の部】最優秀賞/江上恵子「十日目の月」大阪府、優秀賞・ストヤーノフ賞/ 森田早貴「夜空の魔法」東京都、
優秀賞/ むかいゆうこ「ひかりの　はっぱ」神奈川県、詞・遙北斗 曲・神保創一
「ヒナだんご」北海道、詞・猪野修都 曲・市東完吾「あいさつ」埼玉県
≪Ⅱ部≫
（予定）子守歌、いっさささん、ふるさと、うれしいひな祭り、赤い靴、ヤシの実、みかんの花咲く丘、
花、七つの子、十五夜お月さん他、かわいいさかなやさん、どじょっこふなっこ、
からたちの花、かごめかごめ、サっちゃん、森のくまさん、
トランペット独奏、松戸の子どもの作品「だいすきなタロー」　他

【演奏者】

五百市田麗子（ソプラノ）　山中久恵（ソプラノ）　鈴木佑未子（ソプラノ）　伊藤陸一（バリトン）　飯島華都（ソプラノ）　坂下恵理（ピアノ）　冨川喜久子（ピアノ）　伊藤浩子（ピアノ）　入道聡代（ピアノ）

藤井陸一（トランペット）

【栄松寺】千葉県松戸市南花島 1 丁目 14-1（上本郷駅出口 1 出口から徒歩約 6 分）
松戸駅→（新京成線）上本郷駅

【音楽祭運営委員】加藤孝司（代表代行）、藤井陽一、鎌田千佳、林麻由美　他

主催/音・音楽フォーラム松戸　後援/松戸市教育委員会

音・音楽フォーラム松戸
（E-mail）oto.ongaku.forum@gmail.com（事務局　鎌田）、yanak_ayu@yahoo.co.jp（谷中）

**総の国童謡音楽祭**

本学会の名誉会員　谷中優先生が
代表を務める
音楽文化団体“音・音楽フォーラム松戸”
が主催している音楽祭です。

会員の飯泉琴都さんも出演されます。

【主催】アーク証券株式会社【共催】紀尾井町サロンホール運営事務局（株式会社ミリウテラス）
【後援】一般社団法人　全日本ピアノ指導者協会（ピティナ）

東京メトロ有楽町線「麹町」「永田町」徒歩5分
東京都千代田区紀尾井町3-29　紀尾井町アークヒル1F
紀尾井町サロンホール
2024.4.11 thu.
開演　19:00｜開場　18:30

シューベルト連弾の夕べ
アーク紀尾井町サロンホール主催シリーズ　木曜コンサート

～オールシューベルトプログラム～
ロンド（連弾）イ長調　D.951
Rondo　A-Dur　D.951（4 Hands）
ピアノソナタ第15番「レリーク」ハ長調　D.840
Sonate für Klavier Nr.15 "Reliquie"　C-Dur　D.840　(Solo)
アレグロ「人生の嵐」（連弾）イ短調　D.947
Allegro "Lebenssturme"　a-moll　D.947（4 Handig）
ファンタジー（連弾）ヘ短調　D.940
Fantasie　f-moll　D.940（4 Handig）

【出演者】
アルヌルフ・フォン・アルニム（ピアノ）
森永 美穂子（ピアノ）

【チケット料金】
全席自由　一般　4,000円（ワンドリンク込み）
学生　3,000円（ワンドリンク込み）
配信　2,000円　（視聴期間：1週間）

【チケット予約・お問い合わせ】
紀尾井町サロンホール
TEL：03-6272-4711（11:00～19:00）
Mail：information@kioichiostudio.com

アルヌルフ・フォン・アルニム
1947年生まれ。フランクフルトで学んだ後、1970年にドイツ国家演奏家資格を得る。パリでピエール・サンカンに師事。その後、シュトゥットガルトで宅に師事を仰ぎ、クラウディオ・アラウ、ヴィルヘルム・ケンプなどのマスタークラスで学ぶ。
ヴィオッティ、マリア・カラス、プリーニ国コンクールで優勝、入賞。
ほとんどのヨーロッパ諸国、アメリカ、中国、韓国、日本でリサイタル及びオーケストラのソリストとして活躍し、録音も多数。
室内楽活動としても、EPツインマーツ、カート・レッカネン、ブロドスキー・カルテット、ジョサアス・バーガー、マリア・クリーゲル、イヴォン・モニアティ、ゲレゴリ・ドゥ・グリゴア、ヴェルター・クリモフ、サシュコ・ガブリロフ、ウルグ・ヘルシャーとの数多くの演奏家と共演。
1977年からフランクフルトで教鞭に就き、ドルトムント、エッセンフォルクヴァング、ミュンヘン音楽大学教授を歴任。
現在はミュンスター音楽大学教授、また、日本でも、武蔵野音楽大学客員教授を務める。
ドイツ、日本、韓国、中国、イタリアで定期的にマスタークラスを開催。
1979年にイタリア・オルヴィオ国家屈指アカデミーを創設し、以来、芸術監督を務める。
ドイツ・ドルトムントのシューベルト国際コンクール審査員歴任。

森永 美穂子
武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了、デトモルト音楽大学演奏家資格を全額修了。
斎藤泉子、上杉ラーク、Aa.アルニムの諸氏に師事。
第17回ピティナピアノコンペティション・ピアノデュオ部門銀賞受賞、日本クレコム賞受賞
第28回東京ピアノデュオコンクール入賞、第21回日本ショパン協会ピアノデュオ部門第3位入賞、
第3回ノヴァ・ミラネーゼ国際音楽コンクール第1位入賞、第28回東京シューベルトコンクール特別賞受賞など、
長野、富山、東京文化会館にてピアノデュオリサイタル、及びソロリサイタルを開催。
また、ドイツ、イタリアの各地でもリサイタルを開催。
現在、武蔵野音楽大学、同大学附属高等学校及び附属音楽教室講師、玉川大学芸術学部講師、
全日本ピアノ指導者協会会員、日本ピアノ教育連盟会員、全国私立音楽教育学会会員。

**森永美穂子先生**
**がご出演される**
**コンサート**
＊
**共演者**
**アルニム教授の**
**公開講座**
**のご案内です。**

## 《会費納入のお願い》

本学会は８月１日より新年度となります。
2024 年 8 月 1 日~2025 年 7 月 31 日の年会費の納入を、よろしくお願いいたします。
≪振込先≫　ゆうちょ銀行 10510-91267401

他銀行よりお振込みいただく場合：店名 058 店番 058（普）9126740
ニホンオンガクキョウイクメディアガッカイ
※入会・退会に際しまして、又、会費についてご質問等ございましたら事務局までご相談ください。

## 事務局だより

元日の夕方、日本列島全体が正月気分でいる最中に突如として北陸・能登地方を襲った大震災。220 人以上の方が命を失い（1 月 12 日現在）今だに行方不明の方も多い。厳寒の中、水も食料も電気も燃料も不足している状況で避難所や孤立した集落で救助を待ちながら過ごす住民の皆さんの不安はいかばかりかと思います。この災害でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申しあげます。今は命を守り、いかに被害を抑え生き延びるかが最優先のフェイズですが、今後、長引く避難生活や復興に向けての支援、被災した方々や子どもたちの心のケアが大切になってくることでしょう。音楽とメディアと教育に携わる私たちにできること、すべきことは何か、今こそ問われているのだと思います。被災された皆さんの心に寄り添い、微力ではありますが力になることができればと願っています。（K）